

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY

2021.5
No. 756



※ P5532 参照

目次

[大学の動き]

● 副学長が発令される	5509
● 副理事が発令される	5509
● 理事補が発令される	5509
● 部局長の交替等	5510
● 第13回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を举行	5513
● 退職者功労表彰式を举行	5514
● 名誉教授称号授与式を举行	5515
● 「第7回京都大学—稲盛財団合同京都賞シンポジウム」を開催	5516
● 令和3年度概算要求内示概要	5517
● 京都大学 重点戦略アクションプラン(2016-2021)(第6版)着手事業	5521
● 令和2年度「総長賞表彰式」を举行	5523
● 京都大学丸和運輸機関ラグビーフィールド竣工記念行事を举行	5525
● 令和2年度卒業式を举行	5525
● 令和2年度大学院学位授与式を举行	5526
● 令和3年度学部入学式を举行	5531
● 令和3年度大学院入学式を举行	5533
● 令和2年度入学式(令和2年度入学者対象)を举行	5536
● 寄附講座、寄附研究部門の設置、更新	5536
● 京都大学とダイキン工業株式会社との包括連携の実施について記者発表	5543

[部局の動き]

● オープンホスピタル2020を開催	5545
--------------------	------

● 日本水環境学会年会2021を開催	5546
● フィールド科学教育研究センター「研究林100周年記念式典・講演会」をオンラインで開催	5547
● フィールド科学教育研究センターが和歌山県有田川町・有田中央高等学校・有田川林業活性化協議会の4者間で、林業振興および人材育成に向けた包括連携協定を締結	5548
● 「京大 森里海ポスターセッション by ONLINE」を開催	5549
● 「第6回京都大学・日本財団森里海シンポジウム」を開催	5550
● 第16回京都大学附置研究所・センターシンポジウム/京都大学熊本講演会を開催	5551

[寸言]

企業経営者に挑戦 谷所 敬	5553
---------------	------

[随想]

「脳の自由エネルギー原理」に心躍る日々 名誉教授 乾 敏郎	5554
----------------------------------	------

[洛書]

数学にこの手で触れる Karel SVADLENKA	5555
----------------------------	------

[話題]

● 医学部附属病院のマスコットキャラクターを発表	5556
● 宇治キャンパスで「2021年度新任教職員及び新入院生等のための安全衛生教育」を開催	5556

[訃報]

西川 禪一 名誉教授	5558
倉知 三夫 名誉教授	5559



京都大学



大学の
動き

副学長が発令される

4月1日付けで副学長が任命されました。任期は令和4年9月30日まで。



情報戦略担当
引原 隆士（新任）

[目次に戻る ↗](#)

副理事が発令される

4月1日付けで新たに副理事が任命されました。



桂キャンパス担当
榎本 哲夫（新任）
【任期：令和3年4月1日～
令和5年3月31日】



宇治・遠隔地キャンパス担当
辻井 敬亘（再任）
【任期：令和3年4月1日～
令和4年3月31日】

[目次に戻る ↗](#)

理事補が発令される

【任期：令和3年4月1日～令和4年9月30日】

（補佐する理事）

施設担当理事	金 多 隆	建築学系（大学院工学研究科）教授	（新任）
--------	-------	------------------	------

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

部局長の交替等

(新任)

法学研究科長・法学部長

塩見 淳 法学系(大学院法学研究科)教授が、山本敬三 法学研究科長・法学部長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



経済学研究科長・経済学部長

依田高典 経済学系(大学院経済学研究科)教授が、江上雅彦 経済学研究科長・経済学部長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



工学研究科長・工学部長

榎本哲夫 物理工学系(大学院工学研究科)教授が、大嶋正裕 工学研究科長・工学部長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



エネルギー科学研究科長

平藤哲司 エネルギー科学系(大学院エネルギー科学研究科)教授が、石原慶一 エネルギー科学研究科長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



生命科学研究科長

福澤秀哉 生命科学系(大学院生命科学研究科)教授が、垣塚彰 生命科学研究科長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



大学の
動き

総合生存学館長

積山 薫 全学教員部（総合生存学館）教授が、寶 馨 総合生存学館長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



人文科学研究所長

稲葉 穰 人文学系（人文科学研究所）教授が、岡村秀典 人文科学研究所長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



エネルギー理工学研究所長

森井 孝 エネルギー理工学系（エネルギー理工学研究所）教授が、岸本泰明 エネルギー理工学研究所長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



防災研究所長

中北英一 防災学系（防災研究所）教授が、橋本 学 防災研究所長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



フィールド科学教育研究センター長

朝倉 彰 生態フィールド学系（フィールド科学教育研究センター）教授が、徳地直子 フィールド科学教育研究センター長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。



情報環境機構長

引原隆士 電気電子工学系（大学院工学研究科）教授が、喜多一 情報環境機構長の後任として選出されました。任期は令和3年4月1日から令和4年9月30日まで。



大学の
動き

(再任)

理学研究科長・理学部長

國府寛司 数学系(大学院理学研究科)教授が、理学研究科長・理学部長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。

化学研究所長

辻井敬亘 統合化学系(化学研究所)教授が、化学研究所長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和4年3月31日まで。

基礎物理学研究所長

青木慎也 基礎物理学系(基礎物理学研究所)教授が、基礎物理学研究所長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。

生態学研究センター長

中野伸一 生態フィールド学系(生態学研究センター)教授が、生態学研究センター長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。

総合博物館長

永益英敏 全学教員部(総合博物館)教授が、総合博物館長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。

福井謙一記念研究センター長

佐藤啓文 工業化学系(大学院工学研究科)教授が、福井謙一記念研究センター長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。

学生総合支援センター長

杉原保史 全学教員部(学生総合支援センター)教授が、学生総合支援センター長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。

環境安全保健機構長

吉崎武尚 国際高等教育院特定教授が、環境安全保健機構長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和4年3月31日まで。

高等研究院長

森 重文 高等研究院特別教授が、高等研究院長に再任されました。任期は令和3年4月1日から令和5年3月31日まで。

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

第13回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を举行

優れた研究成果を挙げた若手女性研究者を顕彰する制度である、京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)の第13回表彰式を3月3日(水)に举行了。

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、今回の表彰式はWeb会議システムを使用したライブ配信形式で実施し、学内外から多くの視聴がありました。

表彰式では、最初に選考委員長である稲垣恭子 理事・副学長から、選考経緯に関する報告を交えた開会の挨拶がありました。

続いて、たちばな賞受賞者に湊 長博 総長から表彰状と記念楯が授与され、伊東知康 株式会社ワコール代表取締役社長執行役員から副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。

また、優秀女性研究者賞奨励賞受賞者にも、同じく湊総長から表彰状が授与され、伊東代表取締役社長執行役員から副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。

その後、湊総長から受賞者へ祝福の言葉と女性研究者のさらなる活躍を期待するエールが送られ、伊東代表取締役社長執行役員から受賞者へ祝辞が述べられました。

引き続き、たちばな賞受賞者による研究発表が行われました。学生部門受賞者の村山さんは「強相関電子系における回転対称性の破れを伴う新奇量子相の解明」について、研究者部門受賞者の今村特定拠点講師は「筋萎縮性側索硬化症の病態解明と新規治療薬の開発研究」について発表し、会場の関係者は熱心に聞き入っていました。

最後に、平島崇男 理事・副学長から閉会の挨拶があり、盛況のうちに閉幕しました。

たちばな賞(優秀女性研究者賞) 受賞者

学 生 部 門 村山陽奈子 理学研究科博士後期課程2年

研究者部門 今村 恵子 iPS細胞研究所特定拠点講師

優秀女性研究者賞奨励賞 受賞者

研究者部門 田鶴寿弥子 生存圏研究所助教



受賞者および関係者



表彰状・記念楯授与の様子



【写真左】湊総長の祝辞

【写真右】伊東代表取締役社長執行役員の祝辞

【関連リンク】

京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/resource/grant/tachibana>

（人事部（職員育成課））

[目次に戻る ↗](#)

退職者功労表彰式を挙行

退職者功労表彰式を3月31日（水）に本部棟5階大会議室において挙行し、湊長博 総長、被表彰者18名が出席しました。

退職者功労表彰は、退職時において勤続年数が30年以上の教職員および有期雇用教職員に対し、その永年にわたる功労を讃えるため創設されたもので、令和2年度末の被表彰者は35名でした。

表彰式では出席の被表彰者の氏名を紹介した後、湊総長より、代表者に表彰状が授与され、祝辞が述べられました。祝辞

では、永年本学の発展のために多大な尽力をいただいたことに感謝の言葉が送られました。

祝辞の後は、各々交流を深められ、和やかな雰囲気の中で式が終了しました。



表彰状授与



被表彰者との集合写真

（人事部（人事企画課））

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

名誉教授称号授与式を挙

4月6日(火)午後4時から、百周年時計台記念館において、理事、監事、副理事、副学長の出席のもとに名誉教授称号授与式を挙りました。

総長より称号を授与された方は、次の68名です。



氏 名	推 薦 部 局	氏 名	推 薦 部 局
川 瀬 博	防災研究所	濱 田 穰	霊長類研究所
富 永 達	農学研究科	鎌 田 浩 毅	人間・環境学研究科
幸 島 司 郎	野生動物研究センター	小野寺 秀 俊	情報学研究科
松 田 素 二	文学研究科	徳 賀 芳 弘	経営管理研究部
増 永 慎一郎	複合原子力科学研究所	溝 端 佐登史	経済研究所
宅 田 裕 彦	エネルギー科学研究科	平 野 丈 夫	理学研究科
川 端 祐 司	複合原子力科学研究所	石 山 拓 二	エネルギー科学研究科
増 井 正 哉	人間・環境学研究科	沼 田 英 治	理学研究科
上 正 明	理学研究科	大久保 嘉 高	複合原子力科学研究所
藤 田 静 雄	工学研究科	末 松 千 尋	経営管理研究部
川 合 光	理学研究科	DE JONG, Wilhelmus Adrianus	東南アジア地域研究研究所
久 本 憲 夫	経済学研究科	木 南 敦	法学研究科
植 田 充 美	農学研究科	田 中 宏 明	工学研究科
南 川 高 志	文学研究科	畑 浩 之	理学研究科
酒 井 伸 一	環境安全保健機構	武 田 俊 一	医学研究科
大 川 勇	人間・環境学研究科	手 塚 哲 央	エネルギー科学研究科
ANDERSON, James Russell	文学研究科	藤 井 秀 樹	経済学研究科
中 川 一	防災研究所	山 口 孝 男	理学研究科
川 端 猛 夫	化学研究所	石 川 裕 彦	防災研究所
壇 辻 正 剛	学術情報メディアセンター	松 村 康 生	農学研究科
永 原 陽 子	文学研究科	守 屋 和 幸	情報学研究科
岩 井 八 郎	教育学研究科	芦 名 定 道	文学研究科
富 田 直 秀	工学研究科	西牟田 祐 二	経済学研究科
瀧 川 敏 算	工学研究科	守 倉 正 博	情報学研究科
松 浦 純 生	防災研究所	影 山 龍一郎	ウイルス・再生医科学研究所
田 邊 玲 子	人間・環境学研究科	大 野 睦 人	ウイルス・再生医科学研究所
江 田 憲 治	人間・環境学研究科	岩 本 武 和	経済学研究科

大学の
動き

氏 名	推 薦 部 局	氏 名	推 薦 部 局
細 田 尚	工学研究科	小 川 修	医学研究科
中 村 佳 正	情報学研究科	浅 田 正 彦	法学研究科
藤 井 滋 穂	地球環境学堂	河 合 江理子	総合生存学館
秋 友 和 典	理学研究科	平 島 崇 男	理学研究科
吉 田 英 生	工学研究科	稲 垣 恭 子	教育学研究科
吉 岡 崇 仁	フィールド科学教育研究センター	村 上 章	農学研究科
岩 井 茂 樹	人文科学研究所	梶 山 泰 生	経営管理研究部

(人事部(人事企画課))

[目次に戻る ↗](#)

「第7回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」を開催

「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP: Kyoto University-Inamori Foundation Joint Kyoto Prize Symposium)を2月16日(火)、オンラインで開催しました。2014年から本学で、2018年からは東京に会場を移して毎年開催してきましたが、2020年度は初めてオンラインでの開催となりました。一般市民、高校生、研究者など合わせて約2,200名の参加者がありました。

今回は、「世界を動かした技術とその道しるべ－技術革新と生命倫理－」を統一テーマとして、2010年に京都賞先端技術部門を受賞された山中伸弥 iPS細胞研究所長をはじめ、中村桂子 JT生命誌研究館名誉館長、山本 卓 広島大学ゲノム編集イノベーションセンター長、斎藤通紀 高等研究院教授の4名が講演を行いました。

講演後には中村名誉館長をモデレーターとした、パネルディスカッションが行われました。パネリストは自身の研究分野の将来展望について語り、参加者からは研究者として必要な資質や研究者になろうとしたきっかけなどの質問が寄せられました。高校生が多く参加したことから、若い人たちへのアドバイスやメッセージに富んだディスカッションとなりました。



パネルディスカッションの様子

聴講者からは、「オンラインのおかげで初めて参加できた」、「ゲノム編集の内容がよく分かり、iPS細胞の方向づけにも活用されることに奥深さも感じた」、「生命科学・最新の医療への適応などの状況と、倫理を含む課題がよく分かり良かった」などの感想が寄せられました。

(総務部(渉外課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

令和3年度概算要求内示概要

1. 大学院・学部組織整備計画

部局名	事項（事業）名
経済学研究科	大学院経済学研究科修士課程 京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻（ジョイント・ディグリー）の設置
医学研究科	医学研究科人間健康科学系専攻における修士課程および博士後期課程入学定員の増員

2. 機能強化経費

①機能強化促進分：

- ・4つの戦略、17件の取組からなる本学の機能強化の方向性に応じた取組構想に対し、機能強化経費（機能強化促進分）が措置された。

部局名	区分	新規 / 継続・継続拡充	事項（事業）名
戦略①：独創的な先端研究・融合研究の推進による学術・社会のイノベーション創出			
法学研究科	プロジェクト	新規	「法政策共同研究センター」の設立
医学研究科	組織整備	継続 拡充	がん免疫総合研究センター（Center for Cancer Immunotherapy and Immunobiology: CCII）構想
高等研究院	組織整備	継続	国内外の卓越した研究者の英知集結ハブの機能強化によるグローバル化の推進と若手人材育成体制の整備
教育学研究科	組織整備	継続	社会変革に応答する学際教育学研究拠点の形成 －融合型研究組織による新たな挑戦－
ウイルス・再生医科学研究所	組織整備	継続	個体の中の細胞社会学の確立と応用 －新世代細胞療法へ向けて－
高等研究院	組織整備	継続	国内外の卓越した研究者の英知集結ハブとなる国際研究拠点の機能強化
全学要求事項	プロジェクト	継続	研究力強化のための次世代を担う若手人材育成基盤構築
戦略②：学生に主体性の発揮と質の高い学修を促す国際通用性の高い教育システムの構築			
事務本部（教育推進・学生支援部） 高大接続・入試センター	プロジェクト	継続	高大接続型「京都大学特色入試」の導入及びアドミッション・オフィス機能の強化
戦略③：世界標準の教育研究環境の構築と多様なグローバル人材育成			
経済学研究科	組織整備	新規	京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻（ジョイント・ディグリー）の設置
経営管理研究部・教育部	組織整備	継続	京都大学経営管理大学院のグローバル化「iGSM」構想

大学の
動き

部局名	区分	新規 / 継続・継続拡充	事項（事業）名
文学研究科 経済学研究科	組織整備	継続	文学研究科修士課程 京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻（ジョイント・ディグリー）の設置
医学研究科	組織整備	継続	大学院医学研究科博士課程京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻（ジョイント・ディグリー）の設置
国際高等教育院 事務本部（教育推進・学生支援部）	組織整備	継続	Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP)
全学要求事項	プロジェクト	継続	ワールドクラス大学としての戦略的基盤強化
戦略④：グローバル化に対応した産官学連携及び最先端で質の高い医療の開発・提供等による社会貢献事業の推進			
医学部附属病院 ウイルス・再生医科学研究所	組織整備	継続	国際臨床研究拠点構想
医学研究科	組織整備	継続	組織再編による多様な高度医療専門職人の養成－医学物理士・臨床研究管理者・医療ビッグデータサイエンティスト等の養成－
医学部附属病院	プロジェクト	継続	ヒト生体試料（クリニカルバイオリソース）を活用した効率的な医療開発の促進

【参考】機能強化の取組構想 イメージ図

京都大学における取組構想 ビジョン＝将来構想（WINDOW構想）			
総長のリーダーシップによる学内改革の推進 ・教育研究組織改革（学域・学系制の導入、研究連携基盤） ・人事・給与システムの弾力化（年俸制、クロスアポイントメント制度の導入） ・IRを活用した大学運営 ・特色入試の実施 等			
第3期における機能強化の方向性（重点支援③）に応じた取組			
【戦略①】 独創的な先端研究・融合研究の推進による 学術・社会のイノベーション創出	【戦略②】 学生に主体性の発揮と質の高い学習を促す 国際通用性の高い教育システムの構築	【戦略③】 世界標準の教育研究環境の構築と多様な グローバル人材育成	【戦略④】 グローバル化に対応した産官学連携及び 最先端で質の高い医療の開発・提供等による 社会貢献事業の推進
【評価指標】	【評価指標】	【評価指標】	【評価指標】
- 国際共著論文数の増加状況 (H27年:2,306本 → R3年:2,900本) - 最先端分野共著論文数の増加状況 (H27年:2,492本 → R3年:3,600本) - 人文社会分野のジャーナルへの掲載論文数の増加状況 (H27年:502本 → R3年:670本) - 共同研究実施金額の増加状況 (第2期平均: 4,183百万円 → R3年度: 6,275百万円)	- インターネットを活用したデジタル教材数の増加状況 [OCW] (H26年度末平均:49件 → 毎年度新たに50件増加) [MOOCs] (H26年度末:1件 → 毎年度新たに2件開講) - 履修証明プログラム数の増加状況 (H27年度末:3件 → R3年度末:7件) - 特色入試による入学人数の増加状況 (H28年度:81人 → R3年度: 141人)	- 学士課程1・2年次を対象とする英語による基礎・教養科目の増加状況 (H26年度:134科目 → R3年度:400科目) - 国際共同学位プログラム(ジョイント/ダブルディグリー)プログラムの増加状況 (H26年度末:7件 → R3年度末:21件) - 外国人留学生受入数の増加状況 (H26年度末:2,441人 → R3年度末:3,450人) - 大学間学術交流協定締結校数の増加状況 (H26年度末:142校 → R3年度末:200校)	- 知的財産収入額の増加状況 【特許】(第2期平均:261,595千円 → R3年度:462,450千円) 【マテリアル】(第2期平均:27,154千円 → R3年度:40,730千円) - 本学の研究成果を活用したベンチャー企業数の増加状況 (第2期中:25社 → 第3期中:新たに40社) - オープンアクセスの推進に伴う京都大学学術情報リポジトリKURENAIへの論文登録数の増加状況 (H27年度末:141,686件 → R3年度末:210,000件) - 先進医療・先端医療の新規実施件数の増加状況 (H27年度末:17件 → R3年度末:37件)
令和元年度概算要求において精選対象とした評価指標（15指標）			
- 国際的に評価の高いジャーナル（TOP5%）への掲載論文数の増加状況 (H27年:721本 → H30年:800本) - 科学研究費助成事業採択の向上状況 (H26年度:494件 → H30年度:543件) ※基礎研究（S・A・B・C）新規採択件数 - 研究支援充実のための専任職員の増加状況 [URA] (H26年度末:40人 → R3年度末:50人) [外国語力基準を満たす専任職員] (H26年度末:77人 → R3年度末:120人) - 共同研究・受託研究実施件数・金額の増加状況 【共同研究】(第2期平均: 624件 → R3年度: 1,030件) 【受託研究】(第2期平均:881件・16,627百万円 → R3年度:1,101件・24,941百万円) - 若手研究者の海外派遣者数の増加状況 (H27年度:1,484人 → R3年度:1,800人) - 未来科学への取組等の推進状況 (H27年度末:40件 → R3年度末:40件以上) ※異分野融合によるユニット等の組織数	- 学部における科目ナンバリングの導入状況 (H27年度末:7.5% → H28年度以降:100%) - 部局横断型の教育プログラムの実施状況 (H27年度:64科目 → H28年度以降:64科目以上) - アクティブラーニングの手法を取り入れた少人数による課題探究型科目数の増加状況 (H27年度:197科目 → H28年度以降:300科目) ※LLASセミナー数	- 外国人教員等の増加状況 (H27年度末:376人 → R3年度末:500人) - 中長期及び短期の海外留学生数の増加状況 (H26年度:1,517人 → R3年度末:1,600人) - 国際共同研究の推進状況 (H26年度:972件 → R3年度末:1,050件) ※共同研究を目的とした中長期の海外派遣/受入件数	- 海外企業・政府機関等との共同研究・受託研究の実施件数・金額の増加状況 (第2期平均:22件・60,500千円 → R3年度:33件・121,000千円) - がんゲノム情報と時系列臨床情報の統合ビッグデータ構築による登録症例数の増加状況 (H27年度末:0件 → R3年度末:500件) - がん医療の社会実装のための新たなガイドライン等の作成状況 (H27年度末:0件 → R3年度末:10件・10件、標準作業手順書 20件)
精選対象外としたが、京都大学として引き続き取り組む評価指標			

大学の
動き

②共通政策課題分：

32件の取組等について、機能強化経費（共通政策課題分）が措置された。

部局名	新規 / 継続	事項（事業）名
全国共同利用・共同実施分（共同利用・共同研究拠点の強化）【認定に伴う経費】		
人文科学研究所	継続	人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点
ウイルス・再生医科学研究所	継続	再生医学・再生医療の先端融合的共同研究
ウイルス・再生医科学研究所	継続	ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点事業
エネルギー理工学研究所	継続	ゼロエミッションエネルギー研究拠点活動の強化
生存圏研究所	継続	生存圏科学の共同利用・共同研究拠点機能の強化
防災研究所	継続	自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究推進事業
基礎物理学研究所	継続	基礎物理学の発展を目指す国際連携型全国共同研究
経済研究所	継続	先端経済理論の国際的共同研究拠点
複合原子力科学研究所	継続	複合原子力科学の有効利用に向けた先導的研究の推進
霊長類研究所	継続	霊長類研究を基にした国際共同研究拠点の推進
東南アジア地域研究研究所	継続	東南アジア研究の国際共同研究拠点
東南アジア地域研究研究所	継続	地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進
生命科学研究科	継続	放射線分子生物学の研究推進拠点
生態学研究センター	継続	生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点の形成
野生動物研究センター	継続	生息地保全と環境教育を振興する野生動物研究に関する国際研究拠点
全国共同利用・共同実施分（共同利用・共同研究拠点の強化）【国際共同利用・共同研究拠点認定分】		
化学研究所	継続	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際グローバル研究拠点形成
数理解析研究所	継続	数学・数理科学の国際共同研究拠点
全国共同利用・共同実施分（共同利用・共同研究拠点の強化）【プロジェクト分】		
数理解析研究所	継続	宇宙幾何学をはじめとする新しい数学の展開 －数学的概念の再構築を切り拓く「極」の形成－
経済研究所	継続	先端政策分析研究推進事業（第Ⅲ期） －エビデンスベース・ポリシーの推進により豊かな生活を実現する新経済社会システムの構築－
化学研究所	継続	統合物質創製化学研究推進機構
生存圏研究所	継続	生存圏科学の国際化とイノベーション強化
基礎物理学研究所	継続	重力物理学の国際拠点形成

大学の
動き

部局名	新規 / 継続	事項（事業）名
複合原子力科学研究所	継続	量子ビームと核科学の革新的複合利用による先端物質科学・分析研究拠点の構築
東南アジア地域研究研究所	継続	日 ASEAN 協働による超学際生存基盤研究の推進
事務本部（企画・情報部（学際融合教育研究推進センター）） 文学研究科 教育学研究科 法学研究科 経済学研究科 人間・環境学研究科 情報学研究科 人文科学研究科 経済研究所 東南アジア地域研究研究所 こころの未来研究センター	継続	エビデンス・ベース社会の構築に向けた人文社会科学の学際融合・最先端研究人材養成事業 －ニーズからシーズへ－
教育関係共同実施分		
農学研究科	新規	近未来の“農”を展望する『食とエネルギーを創るグリーンエネルギーファーム』教育拠点
フィールド科学教育研究センター	新規	黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点整備事業
フィールド科学教育研究センター	新規	日本海における水産学・水圏環境学フィールド教育拠点形成事業
フィールド科学教育研究センター	継続	人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点
数理・データサイエンス・AI に係る教育強化経費		
国際高等教育院	継続	データ科学イノベーション教育研究センター構想 －21 世紀のイノベーションを支える人材育成－
基盤的設備等整備分		
医学部附属病院	新規	レジリエントサイバーフィジカルホスピタルネットワークシステム
医学部附属病院	新規	医療器材等滅菌管理システム

3. 病院特別医療機械設備（財政投融資設備）

部局名	事項（事業）名
医学部附属病院	中央診療機能強化システム

4. 国立大学法人先端研究等施設整備費補助金

部局名	事項（事業）名
医学研究科	複雑系がん免疫総合解析システム整備事業

大学の
動き

5. 施設整備費

〈令和3年度当初予算〉

団地等 名	新規/ 継続	事業名	構造・階 面 積
熊取	新規	総合研究棟（原子力科学系）	R 2,330㎡【改修】 R3-1 4,300㎡【新增築】
熊取	新規	ライフライン再生（原子力防災設備）	—
吉田	継続	がん免疫総合研究センター	R5-1 6,130㎡
吉田	継続	総合研究棟改修（臨床系）	SR 2,070㎡
吉田	継続	ライフライン再生Ⅱ（特高受変電設備）	—
桂	継続	総合研究棟Ⅲ（物理系）等施設整備事業（BOT） （PFI 事業 12-10）	—
吉田	継続	総合研究棟（医薬系）（PFI 事業 13-5）	—
医病	継続	中央診療棟等改修その他	SR 23,780㎡【改修】 S 50㎡【新增築】 （中央診療棟）
			SR 16,010㎡【改修】 S3 120㎡【新增築】 （北病棟）
医病	継続	ライフライン再生（自家発電設備）	—

〈令和2年度補正予算〉

団地等 名	新規/ 継続	事業名	構造・階 面 積
吉田	新規	ライフライン再生（排水処理設備）	—
吉田	新規	実験研究棟改修（核融合）	R 2,740㎡
中央	新規	基幹・環境整備（衛生対策等）	—

（財務部（財務課））

[目次に戻る ↗](#)

京都大学 重点戦略アクションプラン（2016-2021） （第6版）着手事業

事業名	着手年度
Wild and Wise	
ワイルド＆ワイズ共学教育受入れプログラム事業 —日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ場としての短期プログラム創設—	2016 年度
Go! Research, Learning & Language Program (GoRiLLa) ゴー！ リサーチ、ラーニング＆ランゲージプログラム（ゴリラプログラム）	2016 年度
京都大学ジャパングートウェイ構想推進支援事業	2016 年度
Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP)	2017 年度
京都大学大学院共通教育実施事業	2017 年度

大学の
動き

事業名	着手年度
International and Innovative	
国際性豊かな環境整備事業	2016 年度
全学海外拠点（グローバル人材育成：ジョン万プログラム（職員））展開事業	2016 年度
国際学術ネットワーク強化推進事業	2016 年度
国際化業務推進強化事業	2016 年度
設備整備・共用促進を通じた質の高い教育研究基盤構築事業	2018 年度
研究支援体制高度化事業	2016 年度
教育研究活動実績の更なる情報化推進事業	2020 年度
次世代研究者育成支援事業	2016 年度
研究活動推進事業	2016 年度
先導的研究拠点形成事業	2016 年度
オープンアクセス推進事業	2016 年度
戦略的広報を通じた国際競争力強化事業	2016 年度
産官学連携の新しい「京大モデル」構築事業	2018 年度
戦略的情報発信の推進事業	2016 年度
臨床研究拠点における支援体制の強化	2016 年度
Natural and Noble	
施設・環境マネジメント推進事業	2016 年度
桂キャンパス整備事業	2016 年度
KUINS ネットワークの館内・末端 SW の更新事業	2017 年度
利益相反マネジメント推進事業	2016 年度
Diverse and Dynamic	
留学生宿舍等整備事業	2016 年度
指定国立大学法人構想推進事業	2018 年度
IR を活用した大学運営に向け必要となる体制等の強化	2017 年度
教学運営を支える教育情報活用（教育 IR）推進事業	2016 年度
障害のある学生への支援体制強化事業	2017 年度
障害者雇用促進事業（京都大学業務支援室の設置）	2018 年度
Original and Optimistic	
「高大接続改革実行プラン」を視野に入れた、高大接続事業及び入学者選抜方法の検討を行う「高大接続・入試センター」の設立並びに強化	2016 年度
高大接続による知的卓越人材育成事業（ELCAS）の推進及び新規展開	2018 年度
経済的学生の支援強化事業	2016 年度
博士後期課程 特別進学支援制度（KSPD）の創設	2017 年度

大学の
動き

事業名	着手年度
京都大学基金寄付募集活動推進事業	2016 年度
全学同窓会支援・卒業生連携強化のための推進事業	2016 年度
Women and the World	
男女共同参画推進事業	2016 年度

(財務部(財務課))

[目次に戻る ↗](#)

令和2年度「総長賞表彰式」を挙行

学業・課外活動・社会貢献活動等において顕著な活躍をし、本学の名譽を高めた学生および学生団体を表彰する「京都大学総長賞」の令和2年度表彰式を3月17日(水)に挙行しました。

今回は、全18件の推薦の中から選考の結果、学業から3名と1団体、課外活動から1名と1団体の受賞者を決定しました。

今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から、表彰式を簡素化して行いました。



表彰式の様子

式では、湊 長博 総長が表彰状等の授与および講評を行った後、受賞者が一言ずつ受賞内容を説明し、和やかな雰囲気の中、閉式となりました。

令和2年度 京都大学総長賞表彰者

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
理学研究科物理学・宇宙物理学専攻 DC3 回生 ナメカタ コウスケ 行方 宏介	学業	2019年に運用開始した京大「せいめい」望遠鏡を用いて恒星で発生した「スーパーフレア」を検出した。この成果は筆頭著者として国際査読雑誌 PASJ に発表し、国内外の新聞や WEB 記事で多数報道された。またスーパーフレア発生の統一的理解に大きく貢献した。
教育学研究科教育学環専攻 DC3 回生 マツナガ ミチコ 松永 倫子	学業	分子生物学や脳神経科学、医学、認知科学を融合した人間科学の新たなアプローチを創出し、ヒトの発達の個人差を説明しうる斬新な成果をあげてきた。その証左は、一流国際誌での3編の論文掲載や国際的学術界での多くの招待講演、国内外のメディア取材などで示されている。 さらに、基礎研究の成果を社会実装するための産学連携活動にも注力し、科学的エビデンスに基づき母子の発達を支援する新たな商品・サービスの開発を行ってきた。これらの成果に対する高い評価は、特許出願やキッズデザイン協議会会長賞、BabyTech Award Japan 受賞などによって客観的に示されている。

大学の
動き

被推薦者・団体名	推薦 対象 分野	推薦理由・受賞歴等
医学部医学科 6 回生 モリベ フミヤ 森部 文弥	学業	学部 4 年時に、米国最大の医学研究所・国立衛生研究所 (NIH) に留学し、抗がん剤治療の効果の度合いを予測する新規マーカーに関する基礎研究を行った。帰国後、本学で同研究について特にリンパ腫に着目したプロジェクトを自ら着想し立ち上げ、NIH や国内の他大学の研究者と共同して本研究を進めた。リンパ腫の新しい治療標的マーカーを世界で初めて報告した当研究論文は PLOS ONE に受理され、高い評価を受けた。
バーチャルセキュアプラットフォーム フォーム開発チーム (代表) 工学部電気電子工学科 4 回生 マツオカ コウタロウ 松岡 航太郎	学業	2019 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業に採択され、準同型暗号を用いた秘匿計算基盤である VSP (Virtual Secure Platform) を開発し、これを以てスーパークリエイタに認定された。またこの成果に基づき論文を執筆し、国際会議 30th USENIX Security Symposium も採択された。
体育会ボート部男子舵手なし ペア (代表) 工学部情報学科 4 回生 ヤマダ コウキ 山田 紘暉	課外	第 98 回全日本選手権大会準優勝 第 47 回全日本大学選手権大会優勝 令和 2 年京都市スポーツ大賞受賞
農学部食料・環境経済学科 4 回生 ホンマ キララ 本間 樹良来	課外	2020 スキーオリエンテーリング北海道選手権大会学生パシュートクラスで優勝し、世界学生スキーオリエンテーリング大会選手権大会日本代表に選出された。(大会中止) Ski Orienteering World Cup Final 2020 に出場し、日本人トップの成績を収め、ユニバーシアード冬季大会の代表に選出された。



受賞者および関係者

教育推進・学生支援部 (厚生課)

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

京都大学丸和運輸機関ラグビーフィールド竣工記念行事を挙

学生の課外活動施設である「京都大学丸和運輸機関ラグビーフィールド」の完成を祝して、竣工記念行事を3月30日（火）に挙行しました。

株式会社丸和運輸機関は、京都大学の創立125周年記念事業の一環として、宇治グラウンドに天然芝・人工芝等総額約4億円規模の寄附によりラグビーフィールドを整備し、本年3月に工事が完了しました。

湊 長博 総長および和佐見 勝 代表取締役社長の挨拶、湊総長、和佐見社長、体育会ラグビー部主将によるテープカットに続き、和佐見社長から湊総長に目録が贈呈されました。体育会ラグビー部主将がお礼の言葉を述べた後、関係者が施設見学を行いました。



テープカットの様子



左から、湊総長、和佐見代表取締役社長



ラグビー部主将お礼の言葉

教育推進・学生支援部（厚生課）

[目次に戻る](#)

令和2年度卒業式を挙

3月24日（水）9時30分、京都市勧業館「みやこめっせ」において、山極壽一 前総長、各理事・副学長、各部局長の出席のもとに、令和2年度卒業式を挙行しました。湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。



学位記を手渡す湊総長



式典の様子

大学の
動き

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご家族の方の来場は遠慮いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。

学位授与者数は次のとおりです。

学士

学 位 名	2021年3月10日、 24日付卒業生数			左記のうち留学生数			旧制 卒業生数	累 計
	男	女	計	男	女	計		
学士（総合人間学）	71	26	97	0	1	1	—	3,187
学士（文学）	123	96	219	1	0	1	4,711	18,022
学士（教育学）	34	19	53	1	0	1	—	3,893
学士（法学）	223	93	316	1	0	1	14,531	39,042
学士（経済学）	193	57	250	1	4	5	8,067	24,194
学士（理学）	290	30	320	0	0	0	2,984	20,092
学士（医学）※1	86	21	107	0	0	0	5,673	13,053
学士（人間健康科学）※1	35	74	109	0	0	0	—	1,894
学士（薬学）※1※2	12	14	26	0	0	0	—	4,032
学士（薬科学）	39	15	54	0	0	0	—	623
学士（工学）	827	93	920	9	9	18	8,606	66,261
学士（農学）	191	108	299	3	1	4	3,392	21,185
小 計	2,124	646	2,770	16	15	31	47,964	215,478
附属医学専門部	—	—	—	—	—	—	804	804
理工科大学	—	—	—	—	—	—	944	944
総 計	2,124	646	2,770	16	15	31	49,712	217,226

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

※1：医学部（医学）は平成22年度より3月10日付け卒業

薬学部（薬学）は平成26年度より3月10日付け卒業

医学部（人間健康科学）は平成29年度より3月10日付け卒業

※2：薬学部（薬学）は4年制の薬学部（薬学）を含む（平成18年度より6年制に改組）

教育推進・学生支援部（教務企画課）

[目次に戻る](#)

令和2年度大学院学位授与式を挙行

3月24日（水）14時00分、京都市勧業館「みやこめっせ」において、山極壽一 前総長、各理事・副学長、各部局長等の出席のもとに、令和2年度大学院学位授与式を挙行しました。

湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご家族の方の来場は遠慮いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。

学位授与者数は次のとおりです。

大学の
動き

修士

学 位 名	2021年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
修士（文学）	47	31	78	5	17	22	5,373
修士（教育学）	17	15	32	3	3	6	1,628
修士（法学）	5	7	12	1	7	8	1,544
修士（経済学）	33	22	55	23	20	43	1,995
修士（理学）	226	46	272	10	4	14	11,806
修士（医科学）	7	10	17	2	5	7	408
修士（人間健康科学）	17	43	60	0	0	0	679
修士（薬科学）	49	13	62	1	4	5	645
修士（工学）	616	89	705	51	24	75	34,658
修士（農学）	194	98	292	11	15	26	11,266
修士（人間・環境学）※ ¹	95	59	154	20	22	42	3,784
修士（エネルギー科学）	108	11	119	4	2	6	2,906
修士（地域研究）※ ²	13	11	24	0	1	1	443
修士（情報学）	161	22	183	19	6	25	4,001
修士（生命科学）	40	22	62	5	1	6	1,599
修士（総合学術）※ ²	10	7	17	4	4	8	54
修士（地球環境学）	13	27	40	4	10	14	695
修士（社会健康医学）	－	－	－	－	－	－	66
修士（薬学）	－	－	－	－	－	－	2,299
総 計	1,651	533	2,184	163	145	308	85,849

※留学生は在留資格「留学」のみの数

※1：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者9名含む

※2：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

修士（専門職）

学 位 名	2021年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士（専門職）	21	16	37	1	2	3	522
公共政策修士（専門職）	25	11	36	2	1	3	565
経営学修士（専門職）	44	42	86	13	34	47	1,088
総 計	90	69	159	16	37	53	2,175

※留学生は在留資格「留学」のみの数

法務博士（専門職）

学 位 名	2021年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	78	50	128	0	0	0	2,519
総 計	78	50	128	0	0	0	2,519

大学の
動き

博士

■課程博士

令和2年11月24日付け、令和3年1月25日付け、3月23日付け

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年11月			2021年1月			2021年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	2	1	3	3	1	4	18	3	21	28	1,173
	0	1	1	0	0	0	6	0	6	7	
博士（教育学）	0	0	0	0	0	0	4	3	7	7	261
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	12	1	13	13	392
	0	0	0	0	0	0	4	0	4	4	
博士（経済学）	1	0	1	0	0	0	16	5	21	22	722
	1	0	1	0	0	0	4	3	7	8	
博士（理学）	3	1	4	7	2	9	78	9	87	100	5,804
	0	1	1	1	1	2	7	3	10	13	
博士（医学）	5	3	8	8	1	9	37	16	53	70	10,476
	0	1	1	0	0	0	2	3	5	6	
博士（医科学）	1	0	1	0	0	0	9	1	10	11	128
	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	
博士（社会健康医学）	1	0	1	0	2	2	3	0	3	6	116
	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	
博士（人間健康科学）	2	2	4	1	0	1	3	6	9	14	91
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	3	2	5	5	1,156
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	11	3	14	14	142
	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	
博士（工学）	6	2	8	5	0	5	74	12	86	99	6,258
	2	1	3	1	0	1	17	9	26	30	
博士（農学）	6	2	8	1	2	3	17	4	21	32	3,103
	2	1	3	1	2	3	2	2	4	10	
博士（人間・環境学）	3	1	4	3	0	3	22	11	33	40	1,003
	0	0	0	2	0	2	2	4	6	8	
博士（エネルギー科学）	0	1	1	0	0	0	2	5	7	8	420
	0	1	1	0	0	0	1	2	3	4	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	8	5	13	13	289
	0	0	0	0	0	0	3	2	5	5	
博士（情報学）	2	1	3	1	1	2	18	3	21	26	765
	0	1	1	0	0	0	5	3	8	9	

大学の
動き

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年11月			2021年1月			2021年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（総合学術）※ ¹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	0	1	1	0	0	0	6	7	13	14	460
	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	
博士（総合学術）※ ²	0	0	0	0	0	0	5	1	6	6	21
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（地球環境学）	0	1	1	1	1	2	3	3	6	9	212
	0	1	1	0	1	1	1	1	2	4	
博士（経営科学）	0	0	0	0	0	0	6	0	6	6	17
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 計	32	16	48	30	10	40	355	100	455	543	33,011
	5	8	13	5	4	9	64	37	101	123	

※留学生は在留資格「留学」のみの数

※1：情報学研究科修了 ※2：総合生存学館修了

■論文博士

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年11月			2021年1月			2021年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	653
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（教育学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	176
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	202
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	406
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（理学）	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	1,575
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（医学）	5	0	5	5	1	6	5	0	5	16	2,225
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（医科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（社会健康医学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

大学の
動き

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年11月			2021年1月			2021年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	773
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（工学）	0	0	0	0	0	0	5	1	6	6	4,194
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（農学）	0	0	0	0	0	0	5	1	6	6	2,897
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（人間・環境学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	54
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	30
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2	15
	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2	
総 計	6	1	7	7	1	8	23	4	27	42	13,416
	0	1	1	1	0	1	0	1	1	3	

※留学生は外国人学生の数

■博士課程教育リーディングプログラム

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年11月			2021年1月			2021年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	0	0	0	0	0	5	1	6	6	24
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
グローバル生存学大学院連携プログラム	0	1	1	0	0	0	2	2	4	5	47
	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	
充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	0	0	0	0	0	0	6	2	8	8	25
	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	

大学の
動き

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年11月			2021年1月			2021年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
デザイン学大学院連携 プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
霊長類学・ワイルドラ イフサイエンス・リー ディング大学院	0	0	0	0	1	1	1	1	2	3	17
	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	
総 計	0	1	1	0	1	1	14	6	20	22	139
	0	0	0	0	1	1	5	3	8	9	

※留学生は在留資格「留学」のみの数

■卓越大学院プログラム

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2020年11月			2021年1月			2021年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
先端光・電子デバイス 創成学	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 計	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



式辞を述べる湊総長



学位記を手渡す湊総長

教育推進・学生支援部（教務企画課）

[目次に戻る](#)

令和3年度学部入学式を挙行

4月7日（水）9時30分、京都市勧業館「みやこめっせ」において、井村裕夫 元総長、松本紘 元総長、山極壽一 前総長、各理事・副学長、各部局長の出席のもとに、令和3年度学部入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご家族の方の来場は遠慮いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。

今年度の入学者数は次のとおりです。

大学の
動き

令和3年度 学部入学人数

令和3年4月1日現在

区 分	一般入試 (前期)		外国学校出 身者選抜		外国人留学 生特別選抜		学士入学		特色入試		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女	
総合人間学 部	84	117	0	0	0	2	0	0	4	5	0	0	88	124
	33		0		2		0		1		0		36	
文学部	123	213	0	0	1	1	2	2	8	11	0	0	134	227
	90		0		0		0		3		0		93	
教育学部	31	57	0	0	1	2	0	0	2	5	5	8	39	72
	26		0		1		0		3		3		33	
法学部	230	310	0	4	2	2	0	0	16	21	3	5	251	342
	80		4		0		0		5		2		91	
経済学部	193	222	4	8	0	0	0	0	10	17	3	4	210	251
	29		4		0		0		7		1		41	
理学部	289	307	0	0	5	7	0	0	10	11	0	0	304	325
	18		0		2		0		1		0		21	
医学部（医 学科）	84	107	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	84	109
	23		0		0		0		2		0		25	
医学部（人間 健康科学科）	32	76	0	0	0	0	0	0	3	28	1	5	36	109
	44		0		0		0		25		4		73	
薬学部	48	79	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	48	84
	31		0		0		0		5		0		36	
工学部	848	929	0	0	23	29	0	0	15	23	8	8	894	989
	81		0		6		0		8		0		95	
農学部	185	298	0	0	0	1	0	0	4	11	0	0	189	310
	113		0		1		0		7		0		121	
総 計	2,147	2,715	4	12	32	44	2	2	72	139	20	30	2,277	2,942
	568		8		12		0		67		10		665	



式典の様子



式典に臨む入学生

教育推進・学生支援部（教務企画課）

[目次に戻る](#)

大学の
動き

令和3年度大学院入学式を挙行

4月7日(水) 14時00分、京都市勧業館「みやこめっせ」において、松本 紘 元総長、山極壽一 前総長、各理事・副学長、各部局長の出席のもとに、令和3年度大学院入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご家族の方の来場は遠慮いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。



式辞を読み上げる湊総長



式典の様子

今年度の入学者数は次のとおりです。

令和3年度 修士課程入学者数

令和3年4月1日現在

区 分	入 学			再/転入学			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	52 (8)	41 (11)	93 (19)	2	3	5	54 (8)	44 (11)	98 (19)
教育学研究科	14 (1)	14 (4)	28 (5)	0	0	0	14 (1)	14 (4)	28 (5)
法学研究科	11 (6)	13 (11)	24 (17)	0	0	0	11 (6)	13 (11)	24 (17)
経済学研究科	33 (10)	27 (15)	60 (25)	0	0	0	33 (10)	27 (15)	60 (25)
理学研究科	261 (5)	41 (2)	302 (7)	0	0	0	261 (5)	41 (2)	302 (7)
医学研究科(医科学専攻等)	10 (4)	17 (6)	27 (10)	0	0	0	10 (4)	17 (6)	27 (10)
医学研究科(人間健康科学系専攻)	24 (2)	54 (0)	78 (2)	0	0	0	24 (2)	54 (0)	78 (2)
薬学研究科	39 (0)	21 (3)	60 (3)	0	0	0	39 (0)	21 (3)	60 (3)
工学研究科	635 (47)	96 (25)	731 (72)	0	0	0	635 (47)	96 (25)	731 (72)
農学研究科	178 (8)	123 (17)	301 (25)	0	0	0	178 (8)	123 (17)	301 (25)
人間・環境学研究科	75 (12)	56 (23)	131 (35)	1	0	1	76 (12)	56 (23)	132 (35)
エネルギー科学研究科	122 (15)	16 (4)	138 (19)	0	0	0	122 (15)	16 (4)	138 (19)
情報学研究科	171 (26)	11 (3)	182 (29)	1	0	1	172 (26)	11 (3)	183 (29)
生命科学研究科	41 (1)	31 (1)	72 (2)	0	0	0	41 (1)	31 (1)	72 (2)
地球環境学舎	15 (3)	25 (7)	40 (10)	0	0	0	15 (3)	25 (7)	40 (10)
総 計	1,681 (148)	586 (132)	2,267 (280)	4	3	7	1,685 (148)	589 (132)	2,274 (280)

※() 内は、留学生(在留資格「留学」のみ、新型コロナウイルスによる未渡日の留学生は含まれず)で、内数

大学の
動き

令和3年度 専門職学位課程入学者数

令和3年4月1日現在

区 分	合 計					
	男		女		計	
法学研究科（法科大学院）	99	(0)	60	(0)	159	(0)
医学研究科	17	(1)	16	(2)	33	(3)
公共政策教育部	27	(3)	15	(3)	42	(6)
経営管理教育部	60	(8)	39	(14)	99	(22)
総 計	203	(12)	130	(19)	333	(31)

※（ ）内は、留学生（在留資格「留学」のみ、新型コロナウイルスによる未渡日の留学生は含まれず）で、内数

令和3年度 博士（後期）課程入学者数

令和3年4月1日現在

区 分	進学		入学		編入学		再入学／転入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
文学研究科 博士後期課程	26(2)	37(8)	0	0	3(2)	6(4)	0	0	29(4)	43(12)
	11(6)		0		3(2)		0		14(8)	
教育学研究科 博士後期課程	11(3)	22(5)	0	0	2(1)	4(1)	0	0	13(4)	26(6)
	11(2)		0		2(0)		0		13(2)	
法学研究科 博士後期課程	6(1)	7(2)	0	0	7(2)	11(5)	0	0	13(3)	18(7)
	1(1)		0		4(3)		0		5(4)	
経済学研究科 博士後期課程	8(2)	10(4)	0	0	1(0)	1(0)	0	0	9(2)	11(4)
	2(2)		0		0		0		2(2)	
理学研究科 博士後期課程	94(7)	108(9)	0	0	12(0)	17(2)	0	0	106(7)	125(11)
	14(2)		0		5(2)		0		19(4)	
医学研究科 博士後期課程	7(2)	16(3)	0	0	8(1)	17(2)	0	0	15(3)	33(5)
	9(1)		0		9(1)		0		18(2)	
医学研究科 博士課程(四年) ^{※1}	3(1)	4(2)	116(6)	160(10)	0	0	0	0	119(7)	164(12)
	1(1)		44(4)		0		0		45(5)	
医学研究科(人間 健康科学系専攻) 博士後期課程	4(0)	12(0)	0	0	4(1)	14(2)	0	0	8(1)	26(2)
	8(0)		0		10(1)		0		18(1)	
薬学研究科 博士後期課程	17(1)	18(1)	0	0	1(0)	4(1)	0	0	18(1)	22(2)
	1(0)		0		3(1)		0		4(1)	
薬学研究科 博士課程(四年)	0	0	8(0)	9(0)	0	0	0	0	8(0)	9(0)
	0		1(0)		0		0		1(0)	

大学の
動き

区 分	進学		入学		編入学		再入学／転入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
工学研究科 博士後期課程	70(16)	85(27)	0	0	41(11)	51(14)	1(0)	1(0)	112(27)	137(41)
	15(11)		0		10(3)		0		25(14)	
農学研究科 博士後期課程	20(1)	33(6)	0	0	18(2)	24(4)	0	0	38(3)	57(10)
	13(5)		0		6(2)		0		19(7)	
人間・環境学研究科 博士後期課程	31(8)	48(14)	0	0	14(2)	23(6)	0	0	45(10)	71(20)
	17(6)		0		9(4)		0		26(10)	
エネルギー科学研究科 博士後期課程	6(1)	7(1)	0	0	7(1)	9(2)	0	0	13(2)	16(3)
	1(0)		0		2(1)		0		3(1)	
アジア・アフリカ 地域研究研究科 博士課程(一貫) ^{※1}	0	1(1)	13(1)	29(2)	3(0)	5(0)	0	0	16(1)	35(3)
	1(1)		16(1)		2(0)		0		19(2)	
情報学研究科 博士後期課程	20(5)	25(6)	0	0	17(4)	21(5)	1(0)	1(0)	38(9)	47(11)
	5(1)		0		4(1)		0		9(2)	
生命科学研究科 博士後期課程	17(4)	22(4)	0	0	2(0)	6(0)	0	0	19(4)	28(4)
	5(0)		0		4(0)		0		9(0)	
地球環境学舎 博士後期課程	0	4(1)	0	0	6(1)	11(3)	0	0	6(1)	15(4)
	4(1)		0		5(2)		0		9(3)	
経営管理教育部 博士後期課程	0	0	0	0	5(0)	6(0)	0	0	5(0)	6(0)
	0		0		1(0)		0		1(0)	
総合生存学館 博士課程(一貫)	0	0	8(0)	16(3)	0	0	0	0	8(0)	16(3)
	0		8(3)		0		0		8(3)	
総 計	340(54)	459(94)	145(7)	214(15)	151(28)	230(51)	2(0)	2(0)	638(89)	905(160)
	119(40)		69(8)		79(23)		0		267(71)	

※() 内は、留学生(在留資格「留学」のみ、新型コロナウイルスによる未渡日の留学生は含まれず)で、内数

※1: 各進学者数は、本学他研究科修士課程または専門職課程修了後、当該課程に進学した者

教育推進・学生支援部(教務企画課)

[目次に戻る](#)

大学の
動き

令和2年度入学式（令和2年度入学者対象）を挙

4月7日（水）16時00分、京都市勧業館「みやこめっせ」において、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった令和2年度入学式を、改めて挙行了しました。式典では、山極壽一前総長、各理事・副学長、各部局長の出席のもとに、湊長博総長による式辞がありました。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご家族の方の来場は遠慮いただき、式典の様子はインターネットで同時配信しました。



式辞を読み上げる湊総長



式典の様子

教育推進・学生支援部（教務企画課）

[目次に戻る](#)

寄附講座、寄附研究部門の設置、更新

リウマチ性疾患先進医療学講座（更新）	
1. 部 局 名	大学院医学研究科
2. 名 称 （英 名）	リウマチ性疾患先進医療学講座 (Department of Advanced Medicine for Rheumatic Diseases)
3. 寄 附 者	長浜市、公立豊岡病院組合、田辺三菱製薬株式会社、中外製薬株式会社、 あゆみ製薬株式会社、ユーシービージャパン株式会社、 旭化成ファーマ株式会社
4. 寄附金額	総額 148,500,000 円
5. 設置期間	令和2年4月1日 ～ 令和5年3月31日 (平成29年4月1日設置)
6. 担当教員	寄附講座教員（特定教授） 伊藤 宣 寄附講座教員（特定准教授） 田中 真生 寄附講座教員（特定講師） 橋本 求 寄附講座教員（特定助教） 村田 浩一 寄附講座教員（特定助教） 渡部 龍
7. 設置目的	診療活動を中心に据え、本学医学部附属病院リウマチセンターの診療を継承する。リウマチ性疾患、主に関節リウマチの診療を専門に行い、内科系と整形外科系の医師が協力して、先進的な内科的および外科的診療を追求する。

大学の
動き

8. 活動内容	診療情報と検体からなるバイオバンクを有する本学医学部附属病院リウマチセンター独自のリウマチ性疾患患者コホートデータベースである KURAMA コホートを継承発展させ、それを用いて、エビデンスに基づいた先進的な治療戦略の考案、発症機序および病態の解明、さらには新規治療法の開発を目的とした研究を行う。 また、リウマチ学をめざす医師を指導し、コメディカルに定期的に研修会を行うなどし、効率的なチーム医療への発展をめざす。 さらには、学内外で他部門、他施設との診療連携を積極的に行うとともに、地方のリウマチ診療推進の試みとして、長浜市と協力し市立長浜病院にリウマチセンターを設置・支援するとともに、コホートデータベースを立ち上げて、学究的なリウマチ先進診療の拠点づくりをめざす。
---------	---

地域医療システム学講座（更新）

1. 部 局 名	大学院医学研究科
2. 名 称 (英 名)	地域医療システム学講座 (Department of Community Medicine)
3. 寄 附 者	公立小浜病院組合、公立橋本市民病院、赤穂市民病院、和歌山県
4. 寄附金額	総額 276,140,000 円
5. 設置期間	令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日 (平成 26 年 4 月 1 日設置)
6. 担当教員	寄附講座教員（特定准教授） 木下 秀之 寄附講座教員（特定講師） 牧山 武 寄附講座教員（特定講師） 山崎 大 寄附講座教員（特定助教） 田辺 直也 寄附講座教員（特定助教） 中西 祐貴 寄附講座教員（特定助教） 河合 良隆 寄附講座教員（特定助教） 十名 洋介 寄附講座教員（特定助教） 梁瀬 まや
7. 設置目的	1 本学医学部附属病院の診療科が、専門医不在ないしは不足している地域の公立病院の常勤医に最新の医療知識を与える機会を定期的に作り、診療科専門医療を遂行し、地域における専門医育成に寄与する。 2 IT を利用し、遠隔地における医師と本学医学部附属病院にいる医師との双方向的なやりとりを可能にし、遠隔診断・遠隔医療支援システムを構築する。 3 大学所属の専門医も、豊富な地域症例に関わることで、専門科のみならず、総合診断能力の維持と向上を目指す。
8. 活動内容	A. 専門医療の遂行と臨床研究 B. 専門医の育成とその方法に関する研究 C. 地域総合病院をフィールドとした臨床研究

創薬医学講座（更新）

1. 部 局 名	大学院医学研究科
2. 名 称 (英 名)	創薬医学講座 (Department of Drug Discovery Medicine)

大学の
動き

3. 寄附者	大日本住友製薬株式会社, 小野薬品工業株式会社, 田辺三菱製薬株式会社, 杏林製薬株式会社
4. 寄附金額	総額 300,000,000 円
5. 設置期間	令和2年4月1日 ~ 令和6年3月31日 (平成28年4月1日設置)
6. 担当教員	寄附講座教員(特任教授) 成宮 周 寄附講座教員(特定教授) 大槻 元 寄附講座教員(特定教授) 早乙女 周子 寄附講座教員(特定准教授) タムケオ・ディーン 寄附講座教員(特定准教授) 沖 真弥 寄附講座教員(特定助教) 網代 将彦
7. 設置目的	基礎から探索臨床までの広範かつ高度な医学知識・医学研究能力に加え製薬科学, regulatory science と知財・起業学を修得した創薬医学研究者の養成と医学に基づく創薬手法に関する研究を行う。
8. 活動内容	・ 基礎から探索臨床までの広範かつ高度な医学知識・医学研究能力に加え製薬科学, regulatory science と知財・起業学を修得した創薬医学研究者の養成手法の研究。 ・ 医学に基づく創薬手法に関する研究。

臨床情報腫瘍学講座(設置)

1. 部局名	大学院医学研究科
2. 名称 (英名)	臨床情報腫瘍学講座 (Department of Clinical Data Science Oncology)
3. 寄附者	中外製薬株式会社, 株式会社ヤクルト本社, Meiji Seika ファルマ株式会社, 富士通株式会社
4. 寄附金額	総額 72,000,000 円
5. 設置期間	令和2年4月1日 ~ 令和5年3月31日
6. 担当教員	寄附講座教員(特定准教授) 山田 敦 寄附講座教員(特定助教) 船越 太郎
7. 設置目的	これまでの2つの寄附講座「臨床腫瘍薬理学講座」と「臨床システム腫瘍学講座」の成果を発展させ, バイオマーカーによる精密医療のデータとバイオリソースセンターのマルチオミックス解析データ, そして電子カルテ上のリアルワールドデータを統合するとともに, 在宅における患者からの自発的な有害事象である ePRO (electric patient report outcome) 情報や有効性評価に関連する CT による画像情報, 食事による栄養評価を含めた医療ビッグデータを構築し, 新しいリアルワールドエビデンスを創生する。
8. 活動内容	(1) リアルワールドデータ研究開発講座と連携して臨床情報をリアルワールドデータとして活用できるシステムの構築をはかる。 (2) 癌患者の栄養管理を簡易化するため, 画像や AI を利用したカロリー計算アプリの開発をはかる。 (3) リアルワールドデータを利用して, 癌治療中におこる腎障害を解決するためのオンコネフロロジーに関する研究を行う。

大学の
動き

港湾物流高度化寄附講座（更新）

1. 部 局 名	経営管理研究部
2. 名 称 (英 名)	港湾物流高度化寄附講座 (Integrated Port Logistics Chair)
3. 寄 附 者	一般財団法人港湾空港総合技術センター， 一般財団法人沿岸技術研究センター，一般財団法人みなと総合研究財団
4. 寄附金額	総額 90,000,000 円
5. 設置期間	令和 2 年 7 月 1 日 ～ 令和 5 年 6 月 30 日 (平成 26 年 7 月 1 日設置)
6. 担当教員	寄附講座教員（特定教授） 宮島 正悟 寄附講座教員（特定准教授） 岡村 京子
7. 設置目的	経済のグローバル化，情報通信技術（ICT）の進展など，国際物流を取り巻く環境が急速に変化するなか，より効率的で信頼性・安定性のある輸送が求められるとともに，国際物流を支える港湾インフラ整備の生産性向上が重要な課題となることから，港湾物流機能及び港湾インフラ整備の高度化に関する研究を実施する。
8. 活動内容	ICT の進展等に対応した①港湾物流システムの高度化に関する研究，②港湾物流のリスクマネジメントに関する研究，③港湾インフラの整備サイクルにおける生産性向上に関する研究を行う。

産業微生物学講座（更新）

1. 部 局 名	大学院農学研究科
2. 名 称 (英 名)	産業微生物学講座 (Industrial Microbiology)
3. 寄 附 者	微生物産業関連企業
4. 寄附金額	総額 10,500,000 円
5. 設置期間	令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 4 年 3 月 31 日 (平成 18 年 4 月 1 日設置)
6. 担当教員	寄附講座教員（客員教授相当） 上田 誠 寄附講座教員（特定准教授相当） 原 良太郎 寄附講座教員（特定助教相当） 竹内 道樹
7. 設置目的	日本の産業の中でも長い伝統と高い技術力を有する応用微生物学領域の研究をさらに推進し，その基盤的技術の確立を目指すとともに，関連する学術・産業界で活躍できる人材の育成を行う。特に，微生物機能を生かした生産技術の将来のシーズとなるいくつかのテーマについて基礎・応用の両面から研究する。
8. 活動内容	微生物機能を生かした物質生産技術のシーズとなるいくつかのテーマに関して，自然界からの探索（スクリーニング）・酵素機能の解明・遺伝子の解析・反応および生産条件の設定等の検討を行い，生産プロセスの構築を行っていく。これらの技術開発の過程を通じて，大学院教育の場における基礎知識および実験技術の取得だけでなく，研究開発能力を持つ人材の育成が期待できる。

大学の
動き

光亜興産官民協働まちづくり実践講座（川村光壽寄附講座）（更新）	
1. 部 局 名	経営管理研究部
2. 名 称 （ 英 名 ）	光亜興産官民協働まちづくり実践講座（川村光壽寄附講座） （City and Town Management by Public-Private Partnerships）
3. 寄 附 者	光亜興産株式会社
4. 寄附金額	総額 75,000,000 円
5. 設置期間	令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日 （平成 26 年 4 月 1 日設置）
6. 担当教員	寄附講座教員（特定教授） 要藤 正任 寄附講座教員（客員教授） 吉田 恭 寄附講座教員（客員教授） 御手洗 潤 寄附講座教員（客員准教授） 鎌田 秀一 寄付講座教員（客員准教授） 堤 洋介
7. 設置目的	産学連携による「まち再生」に向けたトータルな研究を行う。
8. 活動内容	我が国のまちを少子高齢化時代にふさわしいコンパクトなまちへ再生するためにはどのような都市再生手法があるのか、内外のまちづくりの事例を通じて産学官連携による「まち再生」に向けた研究を行う。

京都ものづくりバレー構想の研究と推進（JOHNAN）寄附講座（更新）	
1. 部 局 名	経営管理研究部
2. 名 称 （ 英 名 ）	京都ものづくりバレー構想の研究と推進（JOHNAN）寄附講座 （JOHNAN Chair in Research and Promotion of “Kyoto Valley for Manufacturing and Innovation”）
3. 寄 附 者	JOHNAN 株式会社
4. 寄附金額	総額 25,500,000 円
5. 設置期間	令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日 （平成 29 年 4 月 1 日設置）
6. 担当教員	教授 若林 靖永 寄附講座教員（客員教授） 泉 秀明 寄附講座教員（客員教授） 竹林 一 寄附講座教員（客員教授） 今庄 啓二 寄附講座教員（客員准教授） 山川 賢記 寄附講座教員（特定助教） 高瀬 進 経営研究センター特命教授 山本 光世 経営研究センター特命講師 上野 敏寛
7. 設置目的	新商品開発の試作から量産に至る製造一貫支援をグローバルレベルで提供する京都地域開発に関する研究および教育を推進する。

大学の
動き

8. 活動内容	本講座では、商品開発ならびに起業に焦点を当てた事業デザイン、試作を含めたプロダクト・リアライゼーション、さらにはインキュベーションとアクセラレーションを含めた「産業エコシステム」を、グローバルレベルかつ京都に相応しい形で実現すべく、実践的な研究を進める。産業界が中心となって地域経済を発展させるためには何が必要で、またそれに携わる企業家人材がどのような能力・資質を具備すべきかについて、経営学各分野の専門知識を応用展開しつつ、経営環境上のマクロ要因から具体的な事業展開・成長のための方法論、さらには長期的な事業成長に欠かせない産業構造の変革に至る企業の社会的責任についても研究し知見を高め、学内外に発信・啓蒙していくことが本講座の狙いである。
---------	---

管理会計（経営会計専門家協会）講座（更新）

1. 部 局 名	経営管理研究部
2. 名 称 (英 名)	管理会計（経営会計専門家協会）講座 (Management Accounting Endowment Research Center (Japan Institute of Management Accounting Professionals))
3. 寄 附 者	一般社団法人日本経営会計専門家協会
4. 寄附金額	総額 30,000,000 円
5. 設置期間	令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 4 年 3 月 31 日 (平成 30 年 4 月 1 日設置)
6. 担当教員	寄附講座教員（特命教授） 吉永 茂 寄附講座教員（特命教授） 永井 秀哉 寄附講座教員（客員教授） 丸田 起大 寄附講座教員（客員教授） 南雲 岳彦 寄附講座教員（客員教授） 太田 一郎
7. 設置目的	管理会計と経営理念を両軸とする経営管理システムの設計と運用に関する先端的な研究を推進し、その研究成果に基づいて経営管理システムの設計・運用等にリーダーシップを発揮する経営管理専門家教育の基盤を構築することで、日本社会の健全な発展に貢献することを目的とする。
8. 活動内容	管理会計研究領域や経営理念研究領域においてリーダーシップを発揮してきた研究者と、経営理念と管理会計を両軸とする経営管理システムの設計・運用の最前線を切り拓いてきた実務者との協力関係を土台に研究・教育活動を遂行する。具体的な研究方法としては、規範的な理論的研究と実証的な経験的研究を連動させる方向で、ケーススタディを基本とする定性的研究とアクションリサーチやフィールド実験をダイナミックに組み合わせた研究プログラムの実施を予定している。

デジタル設計生産学講座（設置）

1. 部 局 名	大学院工学研究科
2. 名 称 (英 名)	デジタル設計生産学講座 (Digital Design & Manufacturing Laboratory)
3. 寄 附 者	一般社団法人森記念製造技術研究財団
4. 寄附金額	総額 250,000,000 円

大学の
動き

5. 設置期間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日
6. 担当教員	寄附講座教員（特定准教授） BEAUCAMP Anthony 寄附講座教員（特定助教） 古田 幸三 寄附講座教員（特定助教） 大和 駿太郎
7. 設置目的	本講座では、様々な階層でネットワーク化が進む社会において今後さらに重要性を増す健康、モバイリティ、知識と人との関係を支える人工物を省エネルギーかつスマートに設計し生産するために、基盤工学やシステム工学の成果とデジタル技術を融合する研究を行う。また、設計生産学の基礎ならびに研究成果を社会に展開するための基盤的な教育を行う。
8. 活動内容	本講座では、設計学と生産学をデジタル技術で融合しながら発展させるために、計算科学を用いた設計法と生産法のデザイン、リードタイムが短く省エネルギーな生産技術の開発、計測技術と情報処理技術を融合して生産の暗黙知を形式知化する方法に関する基盤研究を行う。 教育への取組みにおいては、従来の設計学と生産学ならびに上記の研究活動の成果をベースとして大学院ならびに学部での講義、実験および演習（実習を含む）を行う。また、教育の社会的な展開も視野にいれ、他の専門領域（機械系以外の工学、情報学、教育学、経営管理等）との連携も行う。

プライベート・エクイティ（ポラリス・キャピタル・グループ）寄附講座（設置）

1. 部 局 名	経営管理研究部
2. 名 称 （ 英 名 ）	プライベート・エクイティ（ポラリス・キャピタル・グループ）寄附講座 (Private Equity (Polaris Capital Group) Endowment)
3. 寄 附 者	ポラリス・キャピタル・グループ株式会社
4. 寄附金額	総額 30,000,000 円
5. 設置期間	令和2年4月1日 ～ 令和5年3月31日
6. 担当教員	寄附講座教員（特別教授） 幸田 博人 寄附講座教員（客員教授） 木村 雄治 寄附講座教員（客員准教授） 上田 亮子 教授 Asli M. Colpan
7. 設置目的	本寄附講座は、金融・資本市場の多様化に伴い、伝統的な企業金融論を理解したうえで、プライベート・エクイティに関する高度な研究、および実務への応用、および関連業界で活躍し得る人材の育成を促進することを目的としている。

大学の
動き

8. 活動内容	活動内容として、3つの主要な研究・教育項目を設ける。 第一に、ベンチャーキャピタルも含めた広義のプライベート・エクイティの概要及び基本的概念を理解したのち、ベンチャー企業を取り巻くエコシステムの構築を通じたイノベーションの促進について研究する。 第二に、より具体的なプライベート・エクイティに係る理解とバイアウト・ファンドによる企業価値向上手法の研究を主要テーマとし、具体的な投資先のケーススタディも含めて、M&A やファイナンス手法の高度化、成長戦略の策定、ビジネスモデルの変革、IoT の活用等の取組みを研究する。これらの手法は、日本企業の生産性向上、ひいては、日本経済の活性化にも繋がるものと考えられる。 第三に、グローバルな角度から日本社会をめぐるガバナンスの実態を把握し、ガバナンスを通じた企業価値向上のあり方を研究するため、「Capital Market and Corporate Governance」(英語講義)を行う。
---------	---

(研究推進部(研究推進課))

[目次に戻る](#)

京都大学とダイキン工業株式会社との包括連携の実施について記者発表

本学はダイキン工業株式会社と2013年に締結した「組織対応型包括連携協定」における共同研究開発テーマを、新たに「ヘルスケア」、「環境」、「エネルギー」、「アジア、アフリカの空調文化」などの観点から見直し、工学中心から医学、農学、地域研究まで取り組み範囲を広げた5つの協創プログラムを軸に再構築することとなり、3月29日(月)に包括連携の実施について記者発表を行いました。

コロナ禍をきっかけに世界的に空気や健康といった関心が高まるなか、本学はダイキン工業株式会社に対し、Well-being(より良く生きられる社会)の実現と教育・啓蒙に向けた、新たな視点での産学連携、共同研究の組成を提案しました。

こうした背景から、コロナ禍による新常態の時代に両組織に共通する問題意識を踏まえて、共同研究テーマを見直し、ヘルスケア領域では、本学が2007年から取り組む「ながはま0次コホート事業」のプラットフォームを活用した研究を行います。同事業は、滋賀県長浜市に住む健康な老若男女1万人の健康情報を分析し病気の予防につなげ、「医学の発展」や「市民の健康づくり」をめざすものです。空気・空間のあらゆる課題と医療データの関連性をさまざまな角度で分析していきます。そのほか、今後、空調機の普及が加速するアジア・アフリカにおける空調



左から湊 長博 総長、十河政則 ダイキン工業株式会社代表取締役社長兼 CEO



本連携について説明する阿曾沼慎 司 オープンイノベーション機構長

大学
の
動き

文化の浸透など、5つの協創プログラムを設定することで合意しました。

本プログラムの推進を主な目的として、2021年4月1日からの10年総額で50億円をめぐり投資額を設定しますが、両者合意の下、魅力あるテーマが設定できれば、上限を設けることなく、必要に応じて投資額を増加させるという柔軟な体制で成果創出に取り組めます。

これらの協創プログラムには本連携の特徴でもある「文理融合」の姿勢で取り組み、その成果は産業技術として確立し社会実装することをめざします。

(研究推進部(産官学連携課))

[目次に戻る ↗](#)



オープンホスピタル 2020 を開催

医学部附属病院では、2月18日(木)～3月31日(水)、「京大病院オープンホスピタル2020」を開催しました。例年は、同病院への就職希望者や、地域住民の方を対象に、院内の見学会や各部門の業務内容紹介などを実施していましたが、本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。

開催にあたっては、同病院の特徴などをより知っていただけるよう、病院紹介動画の作成を行いました。また、宮本 享 病院長と井川順子 看護部長、若手メディカルスタッフによる座談会の様子を記事にしたほか、若手職員の業務内容や、仕事をするうえで大切に

していることなどをまとめた冊子「若手職員の1日に密着!」も作成しました。この他、各部門を紹介する動画やスライドなど、多くのコンテンツを特設ページで公開しました。

特設ページは、開催期間中、延べ9,200回以上のアクセスがあり、盛況のうちに公開終了となりました。病院紹介動画は今後もYouTubeで閲覧できます。

医学部附属病院では、今後もオープンホスピタルなどの取り組みを通して、実際に現場で働く職員が自ら同病院の魅力を伝えられるよう努めていきます。

【関連リンク】

京大病院紹介動画 (YouTube)

<https://www.youtube.com/watch?v=Z8qAjYPawMc>

(医学部附属病院)

[目次に戻る ↗](#)



病院長×看護部長×若手職員
特別座談会

若手職員の1日に密着!



各部署による業務紹介

部局の
動き

日本水環境学会年会 2021 を開催

2021年3月10日(水)～12日(金)、藤井滋穂 地球環境学学教授が実行委員長を務め、京都大学が共催する日本水環境学会第55回年会在オンラインで開催され、1,019名が参加しました。当初は吉田キャンパスで開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンラインに変更しました。そのため懇親会や見学会、企業展示は実施できませんでしたが、その他については新たな工夫を取り入れ開催されました。

355件の口頭発表はZoomを活用し、最大10セッションを並行して実施しました。水環境に関する幅広いトピックについて発表があり、活発な討議が行われました。一方、ポスター発表は、①Web上で音声による説明可能なポスター掲示と質疑(年会の数日前から掲示)、②年会中Zoomによる音声付パワーポイントを繰り返し自動再生、③Zoomで質疑するセッションを設定、の形式で行いました。オンラインでの開催により、従来以上に多くのポスターを自由に閲覧することができました。

特別講演では、山極壽一 前総長・名誉教授に「コロナ後の人と自然の関係について考える」と題して講演いただきました。生物の進化の歴史から始まり、人間社会の成り立ち、そしてこれからの社会やその自然との関わりについてスケール感のある内容で、講演後には多数の質問が



WebサイトのPoster表示とPosterに対する質疑(年会優秀発表賞受賞発表表)



山極前総長による Zoom 特別講演の様子(地球環境学学長室)



寄せられました。

さらに、学生向けセミナー「水環境ビジネスガイダンス」や、年会優秀発表賞（クリタ賞）、年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）の投票・審査もオンラインで実施され、閉会式ではそれらの受賞者が発表され、大いに盛り上がりました。

今回の年会は、新たなシンポジウムの形を提案する有意義なものとなりました。

（地球環境学堂）

[目次に戻る ↗](#)

フィールド科学教育研究センター「研究林 100 周年記念式典・講演会」をオンラインで開催

フィールド科学教育研究センターは3月15日（月）、「研究林 100 周年記念式典・講演会」をオンラインで開催しました。旧農学部附属演習林の関係者や農学部林学科の卒業生、関係自治体の関係者、研究林・試験地の教職員など約300名が参加しました。

記念式典では、研究林 100 年の歩みを紹介するビデオの放映、徳地直子 フィールド科学教育研究センター長の式辞、湊 長博 総長の挨拶がそれぞれ行われました。また、来賓の西村良平 南丹市長、菊池博之 文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐および山下多聞 全国大学演習林協議会副会長から祝辞をいただきました。

後半の講演会「芦生研究林の 100 年の歩みと新たな 30 年：様々な生き物が棲む森へ、多様な人がともに学ぶ場へ」では、芦生研究林にゆかりのある研究者らによる講演が行われました。総合討論では、登壇者が今後の芦生研究林に望むこと、また研究林の教職員や研究者への助言を述べ、講演会は盛会のうちに終了しました。



徳地センター長の式辞



湊総長の挨拶



西村市長の来賓挨拶



渡辺弘之 元演習林長の講演



石原正恵 芦生研究林長の講演



総合討論



記念式典と講演会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインでの開催となりましたが、全国から多くの方が参加し、最新の研究成果を参加者で共有することができました。

後日、京都大学OCWで本記念式典と講演会の映像を公開する予定です。

【関連リンク】

京都大学フィールド科学教育研究センター「研究林100周年記念式典・講演会」開催案内

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2021-02-10-1>

(フィールド科学教育研究センター)

[目次に戻る ↗](#)

フィールド科学教育研究センターが和歌山県有田川町・有田中央高等学校・有田川林業活性化協議会の4者間で、林業振興および人材育成に向けた包括連携協定を締結

フィールド科学教育研究センターは3月19日(金)、和歌山県有田川町・有田中央高等学校・有田川林業活性化協議会の4者間で包括連携協定を締結しました。本協定は、有田川町が持つ豊かな地域資源である「林業」を活かした取り組みを進めることにより、林業振興において直面する課題に対応し、まちの活性化および住民生活の向上を図ることを目的としています。

締結式では、徳地直子 フィールド科学教育研究センター長と中山正隆 有田川町長らが挨拶で本連携に対する期待などを述べた後、連携協定書に署名しました。

今後は、フィールド科学教育研究センター和歌山研究林が有田中央高等学校清水分校と提携して提供している授業科目「ウッズサイエンス」などを通して、地域の森林資源を保全しながら、活用できる人材の育成活動をさらに充実させるとともに、京都大学における教育研究フィールドの拡充と新たな事業の発展、過疎化が進む地域での雇用創出につなげたいと考えています。

【関連リンク】

4者間による包括連携協定締結の概要

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/blog/archives/31532>



協定書に署名する様子



左から、協定書を持つ森 勝博 有田中央高等学校長、徳地センター長、中山有田川町長、福本勝次 有田川林業活性化協議会長

(フィールド科学教育研究センター)

[目次に戻る ↗](#)



「京大 森里海ポスターセッション by ONLINE」を開催

京都大学森里海連環学教育研究ユニットでは3月13日(土)、2018年度から始めた高校生の研究活動を支援する「京大 森里海ポスターセッション(第3回)」をオンライン(Zoom)にて開催しました。コロナ禍のもと、本学に集まっていた実施とはなりませんでした。が、連携高校13校から迫力あるポスターが集まりました。

ポスターセッションでは、最初に事前提出のあった各校3分の要旨説明動画を流し、参加者は概要を把握してから、各高校のブレイクアウトルームに入室しました。各ブレイクアウトルームには本学教員がファシリテーターとして、15分の説明、30分の質疑応答の進行および助言を行い、地域を超えた高校生同士の交流を図ることができました。

審査員による厳正な審査の結果、優秀なポスターに森賞・里賞・海賞、オーディエンスに広く発信したポスターにオーディエンス賞、ポスター内容に基づいて企画賞、デザイン賞、メッセージ賞を授与しました。

各賞の授与高校は以下のとおりです。

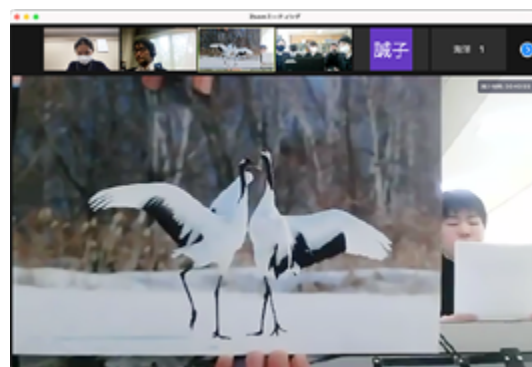
- ・ 森 賞
福岡県立伝習館高等学校
- ・ 里 賞
広島県立広島国泰寺高等学校
- ・ 海 賞
東京都立八王子東高等学校
- ・ オーディエンス賞
和歌山県立海南高等学校
愛媛県立西条高等学校
- ・ 企画賞
京都府立海洋高等学校
京都府立西舞鶴高等学校
神奈川県立生田高等学校
- ・ デザイン賞
山口県立徳山高等学校
島根県立津和野高等学校
- ・ メッセージ賞
福岡県立京都高等学校
石川県立七尾高等学校
北海道釧路湖陵高等学校



主会場の様子



開始前のチャット画面



高校のポスター発表

(森里海連環学教育研究ユニット)

[目次に戻る](#)



「第6回京都大学・日本財団森里海シンポジウム」を開催

京都大学森里海連環学教育研究ユニット主催、日本財団・京都大学フィールド科学教育研究センター・京都大学野生動物研究センター共催の「第6回京都大学・日本財団森里海シンポジウム」が3月13日(土)、オンライン(ウェビナー)にて開催されました。

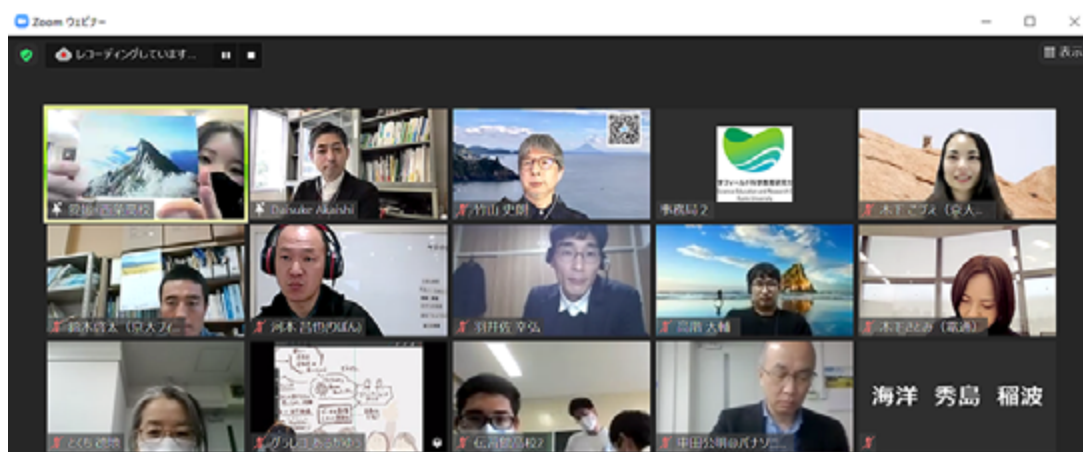
最初に、共催団体で本ユニットの支援団体である日本財団海洋事業部の高階大輔氏より挨拶があり、引き続き「高校生と考える未来の風景ー守りたいものと変えたいものー」をテーマに、企業や行政、NPOといった社会のさまざまな分野における持続可能な社会に向けた取り組みの発表がありました。それぞれの発表後には質疑応答があり、新しい取り組みとしての工夫や苦勞、目標達成に向けた課題などを参加者全員で共有しました。

パネルディスカッションでは、高校生も参加し、SDGsの目標年とされている2030年に向けて守りたいもの、変えたいものについて議論しました。また、環境問題を他人事から自分事にするためにはどうすればよいかといった参加者からの質問に対し、パネリストから多様な提案がありました。

最後に、吉岡崇仁 フィールド科学教育研究センター教授からシンポジウムのまとめがあり、朝倉 彰 同センター教授による挨拶で閉会となりました。

なお、各団体からの発表は以下のとおりです。(発表順)

1. パナソニック株式会社 中田公明 「サーキュラーエコノミーを目指した素材開発」
2. 株式会社モンベル 竹山史朗 「自然に遊び、自然に学ぶ」
3. 京都大学野生動物研究センター助教 木下こづえ 「高校生と考える未来の風景」



パネルディスカッションの様子



グラフィックレコーディング



4. 株式会社電通 木下さとみ 「DENTSU生態系LAB 広告会社の中に生態系ラボ？持続可能な社会に向けてできること」
5. NPO法人「りぼん」 河本昌也 「森里海と障害児の間にある障壁について」
6. 環境省自然環境局 羽井佐幸宏 「森里川海のつながりー生物多様性を守るための新しい取組ー」

(森里海連環学教育研究ユニット)

[目次に戻る ↗](#)

第16回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／京都大学熊本講演会を開催

本学19の附置研究所・研究センターにより構成される研究連携基盤は3月6日(土)、第16回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／京都大学熊本講演会「京都からの挑戦ー地球社会の調和ある共存に向けて」を開催しました。

今回のサブテーマは「未知の原野を行くーコロナ禍を超えた新しい世界へ」としました。

まず、湊 長博 総長が本学を代表して開会の挨拶を述べました。その後、森前智行 基礎物理学研究所准教授、梅澤俊明 生存圏研究所教授、マリオ・ロペズ 東南アジア地域研究研究所准教授、徳山奈帆子 霊長類研究所助教、小柳義夫 ウイルス・再生医科学研究所教授、宇野裕美 生態学研究センター特定准教授、関口 格 経済研究所教授による7講演が行われ、それぞれの研究成果をわかりやすく発表しました。

講演終了後には、会場からの質問に対して講演者が答え、より理解を深めました。



開会の挨拶を行う湊総長





次に、パネルディスカッションでは、渡辺隆司 研究連携基盤長（生存圏研究所教授）の司会により、湊総長，時任宣博 理事・副学長と7名の講演者が「未知の原野に行く学問とは」について意見交換を行いました。

最後に，時任理事・副学長が総括と閉会の挨拶を行い，シンポジウムは終了しました。一般公募による参加者のほか，熊本県内の高校生など合わせて211名が，最後まで熱心に参加していました。

今回のシンポジウムは，昨年3月に開催予定でしたが，新型コロナウイルス感染症対策のため中止となっていたもので，感染症防止のための熊本県のガイドラインに則り収容率50%以内の定員で実施するとともに，参加者には事前に問診票を送付して体調を確認するなど，万全を期して開催しました。

【関連リンク】

研究連携基盤「第16回京都大学附置研究所・センターシンポジウム」

<https://www.kurca.kyoto-u.ac.jp/fuchi-ken-center-symposium/11-20/16th>

（研究連携基盤（基盤企画室））

[目次に戻る ↗](#)

寸言

企業経営者に挑戦

谷所 敬



私は、昭和48年に京大工学研究科数理工学専攻修士課程を修了して、日立造船に入社しました。日立造船への入社の動機は、海外の大型プラントを建設したかったからです。紙・パルプ、海水淡水化、発電などのプラント制御システムを設計する仕事を約20年間担当しました。その後は、設計、開発、営業の管理者を経て、経営者への道に進みました。残念ながら、設計技術者として担当した機種も、社名にある造船事業も、今の日立造船の事業として残っていません。

コロナウィルスへの政府や都道府県知事の対応を見ていると、想定外の課題への適切な対策が不明確であると思われます。政府の推奨する「脱炭素」や「デジタルトランスフォーメーション」(DX)に対して、企業側の対応にも最適な解はありません。企業は常に「変革」を続けないと、事業の継続が望めません。AIなどのDX技術の進歩が、企業の変革を加速しています。変革の加速には自社技術だけでは足りずに、社外とのオープンイノベーションが欠かせません。

会社の事業内容は外部環境により変わりますし、個人の役割も年齢に従い変化していきます。企業人は、担当者としての職員から始まり、管理者、経営者として成長していかなければなりません。会社にとって、職員は最も大切なステークホルダーであります。管理者が職員を育てていくには、標準的な仕事の仕方などの「形式知」を教え、仕事の経験を積ませて「実践知」を習得させることが必要です。

大学1, 2年生で教養知識としてリベラルアーツ(人文科学)を身に着け、専門課程で技術知識を蓄えておけば、企業内で職員として知識を実践することにより判断力を養い、知識を「知恵」に変えて成長していけます。職員から管理者を経て経営者になっていくには、指導力、戦略立案、収益分析などが必要となります。企業内でも絶えず新しい知識を吸収し、実践の行動に移すことが重要であります。

企業の競争力、収益力を維持・改善するには、持続的なイノベーションが欠かせません。日立造船の140年の歴史には、創業者の「挑戦」の精神が生きています。創業者ハンター氏が幕末に日本に来て、大阪で外国人・民間人として造船業を創業し、その後、鑄造菅、橋梁、鉄骨などの当時の新製品を開拓・製造し続けた努力や苦労は、ベンチャー会社の起業と同じ挑戦だったと思われます。

企業活動を社会との調和を保ち続ける信念が経営者に求められています。グローバル化、ダイバーシティ、働き方改革など企業を取り巻く外部環境が大きく変化し、脱炭素やSDGsに貢献することが、産官学の共通の目標となりました。京大生の方は、企業に入って成長するか、自分で起業するか、どちらかの方法で企業経営者に挑戦してください。

(たにしよ たかし、日立造船株式会社代表取締役 取締役会長兼 CEO、
昭和46年工学部卒業、昭和48年大学院工学研究科修士課程修了)

[目次に戻る ↗](#)

随 想

「脳の自由エネルギー原理」
に心躍る日々

名誉教授 乾 敏郎



1995年より文学部(1996年より文学研究科)で教授を務めた後、1998年の「情報学研究科」の創設に伴い、同研究科知能情報学専攻に籍を移しまして、退職を迎えました。2016年から本年3月まで追手門学院大学心理学部で教授を務めました。4月より同大学の学長室特別顧問を拝命し、もうしばらく大学教育に携わります。

私は視覚認知機能を中心に研究を進めてきました。長年の研究から「人間は予測能力がきわめて高く、外界の情報を予測的に処理し、予測誤差によって知識を書き換えている」と考えるに至りました。この考え方から1998年に、言語の生成と認識、さらには多くの失語症の事例を矛盾なく説明できることを示しました。また2013年から2014年にかけて、人間がダイナミックに生成するイメージは、脳内で仮想的に体を動かして生ずる感覚変化を予測する機能によるものであることを示しました。

実は視覚に関してHelmholtzが、視知覚の機能は網膜像から外界の状態や構造を推論することと考え、この過程を無意識的推論と呼びました。時は進み2010年頃、イギリスの神経科学者Karl Fristonが「自由エネルギー原理」なる説を提案しました。Fristonの理論では、Bayes推論がHelmholtzの自由エネルギーを最小化することと等価であることが示されました。これはまさにHelmholtzの無意識的推論に対応することです。何よりも重要なのは、自由エネルギーの最小化は、予測された感覚信号を自己実現して不確実性を低下させることでも実現可能であると彼が気づいたことでしょう。このプロセスは能動的推論と呼ばれ、注意や運動の過程に相当します。Fristonは、このような自由エネルギー最小化によって知覚と運動のサイクルが閉じ、このサイクルを繰り返して人間は行動すると説きました。

注意や行動に関する彼の第一原理は「未来の不確実性(期待自由エネルギー)を最小化するように我々は行動している」というものです。不確実性の最小化はすなわち、エントロピーの最小化ですから(各時点の不確実性はShannonサプライズと呼ばれ、その時間平均がエントロピーである)、熱力学第二法則に抗して自己組織化される現象も含む多くの生命現象が説明できます。「自由エネルギー原理は、Hamiltonの最小作用原理や統計物理学のH-定理と同程度に単純で根源的なものである」と彼自身もいうように、彼の理論で実に多様な脳機能を説明できそうです。彼の研究は難解極まるものなのですが、勉強の成果の一端を『脳の大統一理論—自由エネルギー原理』なる解説書として昨年末、電通大の阪口先生と共同で執筆し、岩波書店より出版しました。彼の理論を何とか自分の研究に活かしたいという思いに突き動かされ、数学・神経科学等々を改めて勉強しては、この理論の可能性に心を躍らせる日々です。

(いぬい としお, 平成28年退職, 元大学院情報学研究科教授,
専門は認知科学・認知神経科学)

[目次に戻る ↗](#)

洛書

数学にこの手で触れる

Karel SVADLENKA



数学の分野で、応用数学者は変わり者と思われがちである。欧米ではそうでもないようだが、日本ではこの考え方は残っており、京大も例外ではない。少なくとも最近までは。考えてみれば、自然なことである。純粋数学では洗練されたアイデアを積み重ねて美しい理論の世界を築き上げていく。この世界は揺るぎない基礎の上に立ち、地上の世界よりもリアルなものであると言える。しかも、自分の研究を通してこの完全で美しい世界の一部を創ることができたときの快感は想像を絶する。ならば、なぜ、わざわざ地上に降りて、数学を“応用”する必要があるのか？恐らく、人間の好みの問題である。牡牛座で生まれた自分は、純粋数学の美しさを味わえることができて、足が地についていないとどうしても満足できない。やはり、数学の美しさにこの手で触れてみたい。材料科学のような“無機”の世界も興味深いが、命を数学的に捉えることが難しそうだからか、生き物に関する数学が一番楽しい。大学時代にこれを曖昧にしか意識していなかったかもしれないが、生物学や医学で利用できそうな偏微分方程式や変分法と言った数学解析と数値解析を中心に勉強してきた。

6年ほど前に、京大に異動する機会をいただいたとき、正直、「世界に誇る純粋数学の摩天楼を築いたところに行ったら、応用数学をやらせてもらえるだろうか」と不安だった。しかし、その心配は不要だった。応用数学と謳っていないが、山口昌哉先生の研究から始まる精力的な伝統があり、最近では、坂上貴之先生や國府寛司先生のご尽力で応用数学のカリキュラムまで導入されたから、学部学生もこの分野の魅力に触れられるようになった。京大の数学者の間で、応用数学は純粋数学を脅かすものではなく、それどころか、より豊かなものにできるものだという理解も生まれつつある。

しかし、私の想像を超えたのは京大理学研究科のMACS教育プログラムである。プログラムの目的は「数理を基盤として新分野の自発的創出を促す」となっているが、これを達成するため、数学を専門とする教員と学生、そして他の理学の分野を研究するメンバーが複数のスタディーグループを形成し、グループ内で議論を重ねて研究を進める。応用数学者にとっては極楽である。一方、浄土ではない。異分野で言葉がなかなか通じない、問題の数学的な定式化が難しい、定式化できても解決の緒が見つからないなど、悩むことばかり。だが、これは参加する教員そして学生にとっても非常に有意義で成長させてくれる楽しいプロセスである。欧米の大学でも舌を巻く取り組みであろう。私は、病理画像に基づいた病理診断の定量化を研究目標とするスタディーグループをハイデルベルク大学の田中求先生のお力添えで始めて4年目になるが、参加している先生方と学生の努力と素晴らしいアイデアへの感嘆が止まらない。昨年度は、変分法を用いて、病理画像の細胞核の角度情報を抽出する手法を、学生の協力の下で確立できたという成果が挙げられた。やはり、京大に来てよかった！

(かれる しゅわどれんか、大学院理学研究科准教授、
専門は応用数学とくに変分解析と数値解析)

[目次に戻る ↗](#)

話題

医学部附属病院のマスコットキャラクターを発表

医学部附属病院では3月30日（火）、マスコットキャラクター「くーぷう」を発表しました。本キャラクターは、院内の職員で結成したプロジェクトチームにて考案、平田明子 事務補佐員の原案をもとに制作しました。

同病院では、今年1月21日より、外来診療棟にてキャラクターの登場イベントを実施しました。卵のようなフォルムから耳や尻尾が徐々に現れていく様子に、多くの方が足を止め注目していました。

また、キャラクターの完成形を予想するイベントも実施し、計48通の投稿がありました。同病院に通院する患者やその家族のほか、こども医療センターで入院している子どもたちからも多くの投稿が寄せられました。

「くーぷう」は今後、医学部附属病院のイベントや刊行物など、さまざまな場面で活用する予定です。



キャラクター「くーぷう」



プロフィール

くーぷう
●●●●●●

年齢	ひみつ
性格	あたたかくてやさしい
チャームポイント	ふわふわの大きなしっぽ
住んでいるところ	京大病院
遊び場所	吉田山、鴨川

⬇️ 白くてあたたかい謎のいきもの
むかしむかし、吉田山で遊んでいてケガをしたところを初代院長に助けられて以来、ずっと京大病院に住んでいる。
真っ白すぎて誰も気づいてくれないとか・・・

「くーぷう」のプロフィール

(医学部附属病院)

[目次に戻る ↗](#)

宇治キャンパスで「2021 年度新任教職員及び新入院生等のための安全衛生教育」を開催

宇治キャンパスでは、4月12日（月）に「2021年度新任教職員及び新入院生等のための安全衛生教育」を実施しました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためZoomによるオンライン配信と会場（おうばくプラザきほだホール）のハイブリッド方式で開催しました。

この講習は、安全に職務や研究を行うために必要な安全衛生に関する知識を修得することを目的として、新たに宇治キャンパスで実習・研究を実施する新入院生、学部4年生、および新規配属の教職員等を対象に毎年実施しているものです。

話 題

今年度、宇治事業場総括安全衛生管理者に就任した 森井 孝 エネルギー理工学研究所長による開会の挨拶に始まり、「宇治事業場の安全衛生」、「衛生管理者による巡視とチェックリスト」、「日々の安全と危険予知等について」、「喫煙問題」、「健康管理・応急手当・感染対策」、「物理実験および計算機関係」、「生物実験および放射線取扱」、「化学物質管理および実験系廃棄物管理」、「実験排水」に関する説明がありました。講習には、教職員39名、学生135名の計174名が参加しました。



挨拶する森井所長

(宇治地区事務部(総務課))

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、西川禕一 名誉教授、倉知三夫 名誉教授が逝去されました。
ここに謹んで哀悼の意を表します。以下に両氏の略歴、業績等を紹介します。

西川 禕一 名誉教授

西川禕一先生は、2月15日に逝去されました。享年87。

先生は、昭和30年京都大学工学部電気工学科を卒業、同32年同大学院工学研究科修士課程を修了、同35年同博士課程を単位修得退学されました。同年4月京都大学工学部助手に採用され、助教授を経て、同47年4月教授に就任、電気工学科計測制御工学講座を担当されました。この間、同37年京都大学工学博士の学位を授与されました。また平成5年4月から同7年3月まで、工学部長・工学研究科長、同7年4月から同8年3月の間、原子エネルギー研究所長を務められています。平成8年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。



本学退官後は、平成8年4月から同11年10月まで大阪工業大学情報科学部長・教授、同11年11月から同19年10月まで同大学学長を務められ、同大学名誉教授の称号を受けられました。また、平成10年4月から同14年3月まで財団法人（平成25年より公益財団法人）京都高度技術研究所所長、同14年7月から同17年3月まで同理事長、平成6年5月から令和元年5月まで財団法人（平成23年より公益財団法人）応用科学研究所理事、理事長、代表理事を務められました。

先生はシステム工学の分野で、システム最適化とその産業や、社会エネルギーシステムの分析などへの応用などの研究において優れた研究業績を残され、その発展に多大の貢献をされました。主な著書に「最適化」「ニューラルネットと計測制御」等があります。

また、計測自動制御学会会長、システム制御情報学会副会長等の要職を歴任されました。

これら一連の教育研究活動、学界活動により、平成21年4月に瑞宝中綬章を受けられました。

（大学院工学研究科）

[目次に戻る](#)

訃報

倉知 三夫 名誉教授

倉知三夫先生は、1月19日に逝去されました。享年93。

先生は、昭和28年3月京都大学工学部冶金学科を卒業後、同年4月同大学院研究奨学生を経て、同32年10月同工学部冶金学科助手に採用されました。昭和37年3月同助教授を経て、同63年10月教授に昇任され、電気冶金学講座を担当されました。その間、昭和37年京都大学工学博士の学位を授与されました。平成2年3月に停年退官され、同年4月京都大学名誉教授の称号を受けられました。

この間永年に亘り学生の教育と研究者の指導に尽力され、多くの人材を育成されました。

先生はマンガンやクロムの硫酸塩水液から高純度金属マンガンや高純度金属クロムを効率よく電解抽出する方法について基礎的電解条件を明らかにされ、わが国における金属マンガン、金属クロムの電解製造工業の創出と発展に大きく寄与されました。また従来、電気鍍金は単一金属の電解析出法が一般でありましたが、先生は2種の金属の電解析出法を着想され、ニッケル-亜鉛、ニッケル-カドミウム、ニッケル-錫、銅-亜銅等の合金の電解析出法に関する基礎的研究を行われました。現在、ニッケル-亜鉛合金組成の電気鍍金は防錆の効果が高く自動車産業で多用されていますが、その先鞭を開かれたものであります。また鉱山における金属精錬工程の実地調査を行い、各工程の排水処理について改善対策を示し、この実施により河川水質が格段に改善されるという、多大な成果を挙げられました。

このように先生は電気冶金学、金属電気化学、金属工業排水処理の専門分野において斯学の進歩に大きく貢献されました。また、学外においてはハルピン工業大学応用化学系の招へい教授等を歴任され、ハルピン工業大学名誉教授の称号を受けられました。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る](#)



京大広報
No.756

令和3年5月31日発行

発行 京都大学総務部広報課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
E-mail:kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※ご意見・ご感想をお寄せください。
「京大広報」の既刊号は、次のURLでご覧いただけます。
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kouhou/>

京大力、新拠点。



京都大学は2022年に創立125周年を迎えます
URL: <https://125th.kyoto-u.ac.jp>